

コロナ禍とスポーツ

市内の新型コロナウイルス感染者の推移を月別にみると、図1のようになる。3月から4月にかけての急増期には、初期の対応として、国による全国の小中学校の一斉休校要請があり、4月7日には緊急事態宣言が出された。

小中学校の校庭、体育館は当然のこと、市の公共施設も4月7日から5月31日まで使用中止となった。(4月8日：藤沢市の今後の対応について)

この間、まちなかからスポーツを楽しむ市民の姿が激減した。ただ、朝早くから、マスクをして黙々とジョギングをする姿は少なからず見かけた。

トップクラスの選手や外国で活躍するスポーツ選手からは、人混みに出かけないことの大切さ、家族や友人、多くの人たちへの思いが生きることに繋がるというメッセージが、オンラインで届けられ、スポーツが好きな子どもたちや多くの選手たちの励みになった。

4月から5月までは、体育協会をはじめ各協会では、2020年度予算案や計画案の成立のために、書面会議による総会開催を行った協会が多いと聞いている。書面による議決は事前に資料を送付しなければならず、事務作業に苦労された協会もあったと思う。

緊急事態宣言の効果が少しずつ表れ始めた6月に入り、市は、市の公共施設について、6月15日から感染症対策を万全に行うことを条件に、使用を許可することとした。(6月8日：スポーツ施設の利用ガイドライン)それに伴い、屋外のスポーツでは、徐々に再開に向けての舵が切られていった。

それでも、少年少女から成人まで、幅広い年代が参加している各協会で、いきなり一様に再開することは困難であり、慎重であった。特に、少年少女に関しては、学校施設の校庭の利用について、対外的な試合ができる状況になったのが9月19日(土)であった。

国のスポーツイベントの方針が示される中で、県や市の考え方も定まり、イベントや練習試合を含めた試合の再開方法

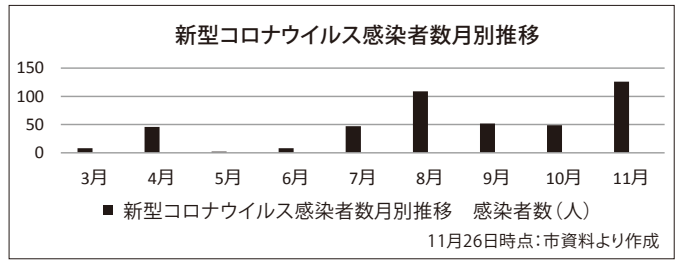


図1

ラグビーワールドカップ2019が

終わりのその後

4年に一度の世界3大スポーツでもあるオリンピック、サッカーワールドカップ、そして日本中に興奮と感動を与え盛り上がったラグビーワールドカップが日本で開催されてから1年が過ぎました。

結果として大成功の大会後、昨年の大学選手権とトップリーグでは、チケットが即日完売になり、球技場が満席になる程の盛況でした。

ラグビーのルールも良くわからない「にわかファン」と呼ばれる新たなラグビーファンの増加と全国的に小中学生等、若い年代の競技者数も目立って増えてきました。

ラグビーワールドカップが終わってからは始まる新たな1ページのキックオフではないでしょうか。

地域ラグビー環境と競技者とラグビーファンの「ワンチーム」を期待したい。

(武井)

の進め方やその際の感染症対策が示され、各協会も各年代・種別において、徐々に再開に向けた動きが出てきたと思う。

11月に入り、藤沢市内では新型コロナウイルス感染症の感染者数が日々増加している。冬に向け、感染する可能性が増加する心配もある。

あらためて、感染症対策をしっかりと行い、健康の維持と増進のために、スポーツができる喜びをかみしめたいと思う。(広報部会：杉瀧)

神奈川県立スポーツセンターがリニューアル

1968年(昭和43年)の開設以来、神奈川県民はじめ、藤沢市民にとっても親しみのあった「県立体育センター」が「県立スポーツセンター」として、生まれ変わり、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、供用開始が延期されていたが、7月21日から開始された。

元の事務棟と体育館は、屋内50mプールやバリアフリー対応の多目的アリーナ(スポーツアリーナ2)として、新装された。スポーツセンター全体は、県民の総合的なスポーツ推進拠点として位置付けられ、特に障がい者スポーツの中心的な役割を持つ。そのため、善行駅東口からのアクセス上の改善として、エレベーターが従来の階段横に設置された。

グリーンハウスにあった玉屋食堂はなくなり、宿泊棟の1階に新しい食堂ができた。

スポーツセンターを利用するには、市が主催する大会は第一優先順位となるが、各協会が主催する大会は第二優先順位となる。インターネットで予約することもできるので利用しましょう。



スポーツアリーナ2

宿泊棟



エレベーター



人工芝サッカー場



特別な夏だった 今年の夏

サーフィン協会

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の中、6月に神奈川県内全ての海水浴場が開設されないことが決定。

しかし多くの方が遊泳などで藤沢の海岸を訪れることが予想される中、開設されないことで、これまでのルールが適用されないことによる影響が懸念されました。

そこで水難事故のリスク軽減、海岸の秩序維持などの課題に対応するため、藤沢市、海水浴場組合、西浜ライフセイビングクラブ、そして藤沢市サーフィン協会により『皆で藤沢の海を守らなければ!』という強い思いで独自の夏期海岸ルールを作成。サーフィン協会としてもサーファー



サーファーへの協力



新たな海岸の在り方に向けて

と遊泳者との接触事故を起こさないために、地元のサーフショップなどに対して事前からルールの周知徹底。そして期間中も海岸でサーファーの皆さんに協力要請などを行いました。
そして皆さんのご理解とご協力を頂き、海辺の事故ゼロ。大きなトラブルもなく、特別な夏を終えることができました。
今回のルールの運用によって新たな海岸のあり方も見えてきました。
藤沢市サーフィン協会と致しまして、来年に向けて多くの方に利用しやすい海岸環境を作ります。(佐賀会長)

コロナ禍の中での加盟団体の取り組み

7月中旬から

活動再開

サッカー協会

神戸大学大学院で感染症を専門としている岩田健太郎教授は、サッカーの試合で選手同士が競り合う場面での感染するリスクはほとんどないが、ピッチ上で指示する監督は注意が必要であるし、観客の意識も大切であるという。また、試合前後の手指消毒や飲料水の共用を避けることなど、サッカーでの感染症対策を紹介している。

サッカー協会としては、Jリーグが定めた対応のガイドラインや市のガイドラインなどを参考にしながら、社会人は7月半ばから、2020年度のリーグ戦を開始し、8月中旬からは市民総体継承大会も開催した。会場には手指消毒のためのアルコールを用意し、試合のメンバー表以外に、当日の参加者の健



地域対抗大会



郡市大会

康チェック名簿の提出を義務付けている。感染症対策への意識は、参加チームはほぼ浸透してきたと言える。
県内の市町村協会が参加する諸大会も11月以降開催されるようになり、藤沢市のチームも参加している。この大会においても、感染症対策は徹底しており、また県内の各グラウンドを使用する場合は、管理者が定めている健康チェックリストが求められる。
秋葉台や大庭のグラウンドでサッカーをしている選手たちは、みな生き生きとしている。コロナ禍が早く終息することを願っている。
(杉瀧)

「ENJOY CUP」開催

バスケットボール協会



9月19日、21日に秋葉台文化体育館で「ENJOY CUP」を開催しました。

バスケットボールは、濃厚接触スポーツ!! ですが、ウィズコロナで、最終的には参加チームとの信頼関係で開催に踏み切る事を決断し、『持ち込まない、持ち帰らない』を指針に運営しました。

2週間前からの検温、当日健康チェックシート提出、更に当日、受付にて検温を記入し、全て確認済みでアンクルバンド装着です。

各チームにはコロナ対策グッズ一式及びTOで使用のフェイスシールドを用意するとともに、指定された更衣室や出入りに消毒を設置、トイレには除菌シートを用意しました。

試合に関しては時程の検討を重ね試合数は取れないが安全性と密を考慮し、入れ替え制で皆さんの協力のもと無事開催できました。

参加チームからの喜び、感謝の声を頂き、『当たり前ありがたい』に大きく変わった意味のある開催となったと思えました。(三角)

クライミング大会

「関東小中学生大会予選大会兼
神奈川県ジュニア強化選手選考会」

優勝!

10月27日に開催された今大会で、大鋸小6年の濱田琉誠(りゅうせい)君が、優勝し、関東大会への出場権と神奈川県山岳連盟のジュニア強化選手に選ばれました。

今大会の種目は、オリンピック複合3種目の中の一つ「リード」で高さ12m以上の壁に作られたコースをどこまで登ることが出来るかを競う競技。

コロナ禍で久々の公式大会でしたが、予選2本、そして決勝も見事完登(最後まで登りきること)してくれました。

まだ小柄なので、少し遠いなあって思っていた箇所も難なくクリアし、登っている姿は本当に大きく見えました!

これからも応援しています!
おめでとう琉誠君! (土肥)



濱田琉誠君

自転車競技BMX

全日本選手権

藤沢市出身の選手が

大健闘!



13-15クラスの優勝の溝垣丈司選手

9月19日~21日の期間に岡山市役所駐車場特設会場にて、第4回目となる全日本BMXフリースタイル選手権が行われ、藤沢市出身の選手が大健闘を果たしました。

まず、4アンダークラスで小島瑠夏選手が4歳とは思えない華麗な走りで優勝を果たし、13~15クラスに出場した溝垣丈司選手(湘洋中)は、高いジャンプとスムーズなライディングで他選手を圧倒し、優勝しました。

彼は、強化育成選手にも選ばれており、パリオリンピックへの出場に期待がかかります。そして、女子エリートクラスでは、佐藤孔玲選手が初参戦ながら3位入賞を果たしました。

コロナ禍で暗いニュースが多い中、藤沢市の選手が明るい話題をもたらしてくれました。また、この大変な時期に大会を開催いただいた関係者の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。(宮本)

健康コラム

食べ方の工夫で、食べ過ぎ防止を♪
管理栄養士 吉川恵美

今年コロナでの外出自粛に加え夏の猛暑が続く、「増えた体重がなかなか戻らない!」という悲鳴を耳にします。ここから迎えるクリスマスや年末年始。体重管理に不安を抱える方も多いのではないのでしょうか?とはいえ美味しい物が並ぶイベントで、「食べてはダメ」という気持ちでいるのは辛いもの。楽しみつつも自然に量を抑えるために「よく噛むこと」を心がけていきましょう。

同時に意識したいのは「一口の量を少なくすること」。和食はお箸でつまむ量をいつもの半分に、洋食はナイフで小さく切ってから口に運べば、自然に食べる時間も長くなり満腹感が増しやすくなります。「口に作る食べ物をより長く楽しむ」という考え方で、イベントが続く時期も無理なく体重管理をしたいですね。



- コロナ禍の中でも、徐々にスポーツ活動が戻ってきています。
- 大庭の親水公園では、グラウンド以外の多目的広場で子どもたちがグループで運動をしたり、ドッグランを使用する方々もいらつしやいます。戸外でのびのびと体を動かすことは、健康にとってよいことと改めて感じます。
- 11月の日曜日、秋葉台球技場ではゲートボールに興ずる高齢者の方々が、楽しまれました。元気を取り戻しましょう。
- 室内スポーツでの感染症対策は、準備に気を使われていることがよくわかります。参加する皆さんの協力でコロナ禍を乗り切りたいと思います。

(宮本・細谷・高坂・杉渕)

編集後記